



- 第4因子に高い負荷量を示した項目は
  - H18, H08, H11 の3項目.

ここで、第3因子に注目してほしい。H22とH13は第3因子に負の負荷量を示していたので、**逆転項目**と考えられる。そこで $\alpha$ 係数を算出する前に、「逆転項目の処理」を行っておく必要がある。これをしないと $\alpha$ 係数が極めて低い値となってしまう。「 $\alpha$ 係数が予想よりもはるかに低かった」と報告しているレポートなどで、実際には逆転項目の処理を誤っていたケースがあるので気をつけてほしい。

### ■逆転項目の処理

新たに、「H22逆」「H13逆」という変数を増やす（これから説明するやり方以外に変数を新たに置き換えてしまう方法もあるが、もとの数値を残した方がよい場合が多いので、ここでは変数を追加する方法を説明する）。

- SPSS の[データビュー]を開く。
- [変換(T)]メニュー ⇒ [計算(C)] を選択。
  - [目標変数(T)]に、H22 逆と入力。
  - [数式(E)]に「7-」とキーボードから入力（あるいはマウスで数字と記号を選択）し、H22 を選択して、 をクリック。
    - ◆ この場合、「7 - H22」という表示になる。
    - ◆ この尺度の項目は1点から6点までの得点範囲をとるため、逆転させる時には「7」から引く（もちろん、1点から5点までの得点範囲であれば「6」から、0点から5点までの得点範囲であれば「5」から引き算する）。
  -  をクリックすると、新たに変数が付け加えられる。

H13についても、同様に逆転項目の処理をしておこう。